

(1月8日) : 米国とイランの衝突で投資家心理が悪化、ベトナム株は下落

ベトナム株は世界の株式市場と同様に水曜日に下落、米国とイランの衝突への懸念が増したことで投資家心理が悪化したことが要因になった。

ホーチミン取引所のVN指数は1.03%安の948.98ポイントで取引を終えた。

出来高は3億1920万株で売買代金にして5.2兆ドンほどであった。

火曜日には0.32%上昇し958.88ポイントで取引を終えた。

263銘柄が下落したのに対し78銘柄のみが上昇。

火曜日に、イランがイラクにある米軍基地にミサイルを発射した。イランは米国がドローンでイランの高官を殺害したことに対する報復だった。そのことが中東情勢についての懸念を高めた。

しかしながら、イランの外相は戦争を始めたいわけではない国連の規定に則って自己防衛を行う権利があると述べた。彼は報復が完了したため、自国を守る以外のさらなる対立の激化や戦争を望んでいないことを強調した。

この攻撃が投資家をリスク資産から逃避させ、米国株は水曜日に下落した。SP先物は1.7%下落し米国10年債は1か月安値まで下落した。

アジア株はどの市場も下落。日経225指数は1.57%安の23,204.76ポイントで取引を終えた。中国の上海総合指数、深セン総合指数とCSI300指数はそれぞれ1.22%、1.24%、1.15%下落した。香港ハンセン指数も0.83%安の28087.92ポイント。韓国のKOSPI指数も1.11%下落した。

ロイター通信によると、原油と金の価格はそれぞれ5%と2%上昇した。

金価格はベトナムでも新高値を付けた。

大きく下落したのは、ビンホームズ(VHM)(-1.6%)、ベトコムバンク(VCB)(-0.9%)、ビンコムリテール(VRE)(-3.7%)、テクコムバンク(TCB)(-1.9%)、ビングループ(VIC)(-0.3%)、マッサングループ(MSN)(-1.4%)、ベトジェット航空

(VJC) (-0.8%)、サイゴンビール (SAB) (-0.4%)、ベティンバンク (CTG) (-0.2%)、ペトロベトナムガス (GAS) (-0.1%)などであった。

セクターごとでは3セクターのみで上昇を記録。水産加工、石油ガス、製造業の3つであった。

一方、卸売り、保険、不動産、証券、IT、小売、銀行、農業、ヘルスケア、プラスチックなどは下落した。

ハノイ取引所の HNX 指数は 1.07%下落し 100.33 ポイントで取引を終えた。

出来高は 4450 万株で売買代金にして 4480 億ドンであった。

HNX 指数は火曜日に 0.18%高の 101.42 ポイントで取引を終えていた。

外国人投資家はホーチミン取引所で 1602 億ドンの売り越し、ハノイ取引所では 23 億ドンの買い越しだった。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。